

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会（全体会） 第6回  
議事要旨

1. 日時 平成 21 年 1 月 30 日（金）14：00～16：30
2. 場所 如水会館 如水コンファレンス
3. 出席者 杉戸委員長，有森委員，井部委員，齋藤委員，柴田委員，関根委員，  
土屋委員，鳥飼委員，宝住委員，三浦委員，矢吹委員，吉山委員，  
和田委員，徳重委員，相澤委員，吉岡委員，田中委員
4. 会議の概要
  - （1）第5回全体会の会議録・議事要旨の確認
  - （2）『『病院の言葉』を分かりやすくする提案』（最終報告）について
    - ・『『病院の言葉』を分かりやすくする提案』（最終報告）について，中間報告からの修正案が示され，討議を行った。
  - （3）市販本『病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—』について
    - ・市販本『病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—』のゲラをもとに，構成や内容，デザインについての案が示され，討議を行った。
  - （4）提案の普及方法について
    - ・最終報告書の配布，ホームページによる公開，市販本の刊行の三つの媒体など，普及方法の案について説明があり，討議を行った。

5. 会議での主な意見

- ① 『『病院の言葉』を分かりやすくする提案』（最終報告）について
  - 「MRSA」について
    - ・「MRSA」の記述に，この細菌に効く薬を記すという案があるが，具体的な薬剤名を出すと，誤解や混乱を生む危険がある。
    - ・「MRSA」の説明にある「通常の薬が効かなくなる細菌」という表現があいまいである。「通常細菌を退治するために使われる薬が効かない」などとするのがよい。
    - ・「MRSA」は細菌のことを指しているのであり，MRSA感染症のことを指すのではない。この部分が混同されているのではないか。
    - ・「MRSA」は，病気になったときに情報が必要になるので，ここで細菌について

で詳しく書いても仕方がない。この項目のタイトル（見出し語）と説明を一致させた方がよい。

- 通常「MRSA」と言えば、菌のことではなく、MRSA感染症のことだと考えられる。見出しを「MRSA（MRSA感染症）」とするのがよい。
- 市販本に補足として掲載されているコラム「MRSAはどこにでもいる」を、最終報告書にも掲載してはどうか。

#### ○その他の言葉について

- 「介護老人保健施設」の関連語に、「介護療養型老人保健施設」を追加すべきではないか。
- 「グループホーム」には、介護保険制度上の正式名称も添えるのが望ましい。
- 「メタボリックシンドローム」の腹まわりの基準値は、今後変更になる可能性があるため、数値は削除してはどうか。
- 「緩和ケア」の言い添えや説明の言葉に、「痛みを和らげる医療」とあるが、痛みだけではなく、「痛みや苦しみを和らげる医療」と修正するのが望ましい。
- 「MRI」について、「CT」との検査方法の比較の説明の表現は、「横になっていると機械がからだの上を回って撮影」とするのがよい。

#### ② 市販本『病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—』について

- コラムの一つ「心理的負担のある患者に接する看護師の工夫」は、タイトルが長く分かりにくい。もう少し柔らかい表現を検討した方がよい。
- 表紙デザインの絵にはメッセージ性がこもるので、特に人物を入れる場合は慎重にしてほしい。

#### ③ 提案の普及方法について

- 提案の基礎調査の一つになったコーパス調査のデータは、公開されて、利用できるようになるのか。
- 国語研究所が作成している「日本語コーパス」は、プロジェクト終了予定の2011年には公開し、だれでも利用できるようになる予定である。「病院の言葉」の活動のために作成した医療コーパスは、公開のための著作権処理を行っていない。しかし、コーパスをもとに委員会での作業のために作成した語彙リストは、現在公開しているものにさらに手を加えて、利用しやすいようにしていきたい。
- この提案は、患者向けの診療ガイドラインに役立つ資料としても活用できるのではないか。

以上